

2 アメリカの夫婦の家事に関する公平感について

永井暁子

1. 分析課題

本稿では夫婦の家事に関する公正感の規定要因について分析するとともに、特に、夫婦が互いにどのような公正感を抱きあっているのか、そしてそれらの組み合わせはどのような夫婦に生じるのかについて注目するつもりである。

1.1. 先行研究

1.1.1 既存の研究

これまでに発表されている家事の公正感の研究によると、家事の公正感は4つあるいは5つの要因によって影響されるとしている。BlairとJohnsonによれば、①実際に行われた家事分担、②（家事）労働自体の認識、③（仕事が忙しいなど家事を行わない）正当な理由、④イデオロギー（性別役割分業意識）が、夫と妻の家事の公正感の要因として考えられる [Blair and Johnson, 1992:571]¹⁾。SanchezとKaneは①時間の入手可能性と分担、②個人の資源と夫婦間の依存性、③性別役割分業意識、④家事内容の認知、⑤夫婦間の相互作用をあげている [Sanchez and Kane, 1996:359]。より大きな枠組みでとらえようとしているのはLennonとRosenfieldである。彼らは社会交換理論を支持し、とくに結婚以外に他の選択肢をもたない、または経済力をもたないものは多くの家事を行ったとしても自分にとって不公正であるとは思わないと述べている [Lennon and Rosenfield, 1994:507]。

夫婦間における仕事と家事の不均等な分担が、妻の生活満足度へ必ずしも直接的な影響力をもたないということに関する疑問への回答を、これらの研究はもとめている。

1.1.2 批判的見解

このような関心と詳細な分析以外に夫婦間の公正感の組み合わせにも着目する必要があるだろう。夫婦単位のデータに関する洗練されたあるいは定式化された分析手法があるとはいえないが、夫婦関係をより鮮明にするために重要である。ここでは記述的分析にとどまるが、夫婦の組み合わせに着目することによってより具体的な夫婦像が見えてくるのではないだろうか。

1.2. 主な作業仮説、分析方針

まず、夫、妻それぞれの公正感はどのようにきまるか、その規定要因についての検討を行う。上述した要因の中から①実際に行われた家事、②正当な理由として考えられる時間の入手可能性、③性別役割意識、④個人の資源について検討する。

次に、夫と妻の家事に関する公正感にはどのような組み合わせがあるか、どのような特徴をもつカップルがどういった公正感の組み合わせになるかについて検討するつもりである。

2. 分析

2.1. 対象としたサンプル

本稿の分析において対象として、1987-88年NSFH第1次調査データから、4点に留意してサンプルをしぼった。第1に、上積みよって補充されたサンプル層に特に着目していないため、メインサンプルのみを用いた。第2に、将来的には日本との比較を行うため、また、アメリカにおいても日本と同様、同棲という形態は法律婚とは異なった特徴をもっているため、法律婚をしているカップルのみを分析対象とした。第3に、生活時間調査との比較を考慮して年齢についても限定し、妻の年齢は19歳以上60歳以下、夫の年齢19歳以上の夫婦を対象とした。第4に、変数を用いる際に、基本回答者の回答から配偶者の情報を得るのではなく、配偶者自身の回答からその情報を得た。結果的に、配偶者が回答したサンプルのみを扱ったことになる。

最終的な回答者の属性は表1～表5に示している。

2.2. 主要な変数

妻・夫それぞれの家事に対する公正感を被説明変数とし、説明変数には①実際に行われた家事として妻と夫それぞれの家事時間、②時間の入手可能性としてそれぞれの仕事時間、③それぞれの役割分業意識、④個人の資源としてそれぞれの収入、さらに属性変数として結婚年(月)数、それぞれの年齢・学歴、17歳以下の末子年齢を用いた。

2.3. 結果

2.3.1 家事の公正感の規定要因

まず、説明変数と被説明変数の相関、偏相関を見ていくと夫・妻家事時間、夫・妻年収、夫年収-妻年収、夫仕事時間、夫・妻年齢、結婚月数がのこる(表6)。これらの説明変数をステップワイズ法で、重回帰分析に投入すると、妻の家事の公正感は妻の年齢、夫の家事時間、妻の家事時間と関係があることがわかる(表7)。これらの数字ををよむと、以下の3つの点がいえることになる。第1に、夫の家事時間が増加するほど、自分にとって公正だと思う傾向がある。第2に、妻の家事時間が減少するほど、自分にとって公正だと思う傾向がある。第3に、自分の年齢が高くなるほど、自分にとって公正だと思う傾向がある。

夫の家事の公正感は夫の年齢、夫の家事時間、妻の家事時間とやはり関係がある(表8)。つまり、第1に夫の家事時間が増加するほど、自分にとって不公正だと思う傾向がある。第2に、妻の家事時間が減少するほど、自分にとって不公正だと思う傾向がある。第3に、自分の年齢が高くなるほど、自分にとって不公正だと思う傾向がある。

ここでは夫の仕事時間も妻の仕事時間も家事の公正感とは関係がないかのようにみえる。しかし生活経験的に考えられることであるが、仕事時間と家事時間の交互作用については検証する必要があるだろう。その結果、妻と夫の公正感と関係がある変数はかなり異なることがわかった(表9, 表10)。この分析の範囲内では、妻の家事の公正感には自分の家事時間と夫の家事時間のみに影響されている。他方、夫の公正感には仕事時間が影響して

いる。しかし、仕事時間の影響についての解釈は簡単ではなく、その影響は妻が残業をしてまで仕事をすると、夫は自分にとって不公正に家事をさせられているとよむこともできるのである。

2.3.2 家事に関する公正感についての夫婦間の組み合わせとその特徴

それでは夫婦間でどのような公正感の組み合わせがあるのだろうか。約半数のカップルは互いに公正だと思っている（表11）。次に、夫からみて妻にとって不公正、妻からみて自分にとって不公正が、それぞれ多い。互いに不公正だと思っているカップルはほとんどいない。表11において50人以上入っているセルのみをとりだし、組み合わせを作ると①～⑧になる（①～⑧合計は全体の94.1%）。それらは以下のとおりである。

- ①互いに公正だと思っているカップル。
- ②夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって不公正だと思っているカップル。
- ③夫は妻に不公正だと思い、妻は自分にとって不公正だと思っているカップル。
- ④夫は妻に不公正だと思い、妻は公正だと思っているカップル。
- ⑤夫は自分にとって不公正だと思い、妻は公正だと思っているカップル。
- ⑥夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって非常に不公正だと思っているカップル。
- ⑦夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって非常に不公正だと思っているカップル。
- ⑧夫は公正だと思っているか、妻は夫にとって不公正だと思っているカップル。

これら8つのパターンの夫婦にみられる特徴をあげよう（表12）。まず、互いに公正だと思っているカップルは夫と妻の年齢が高く、結婚月数は同じ年齢層の⑥に比べると短い。学歴は若干低く、専業主婦の比率が高いが、末子が乳幼児である比率は低い。夫、妻ともに性別役割分業意識がやや高い。夫と妻の家事時間の差は若干少ない。

第2に、夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって不公正だと思っているカップルである。夫と妻の年齢は若干若い層であるが、同じ年齢層の⑤に比べると結婚月数は長い。学歴は平均よりも高く、専業主婦の比率は低い。性別役割分業意識は夫も妻も平均的で、夫と妻の家事時間の差は平均的である。

第3に、夫は妻に不公正だと思い、妻は自分にとって不公正だと思っているカップルは最も年齢層が低く、年齢差が小さいグループである。学歴は高く、専業主婦の比率は最も低い、末子が乳幼児である比率は中程度である。性別役割分業意識は低い、夫と妻の家事時間の差は大きい。

第4に、夫は妻に不公正だと思い、妻は公正だと思っているカップルは夫、妻の年齢は低く、④より平均年齢が高い②、⑤よりも結婚月数は長い。学歴が高い。専業主婦の比率は高く、末子が乳幼児である比率も高い。性別役割分業意識はやや低く、夫と妻の家事時間の差は比較的大きい。

第5に、夫は自分にとって不公正だと思い、妻は公正だと思っているカップルである。年齢は若干若い層で、結婚月数も最も短い。学歴はやや高い。末子乳幼児の比率は高く、専業主婦の比率も高い。性別役割分業意識については、夫は③の夫と同程度に低く、妻は③の妻に比べてさらに低い。夫の家事時間は最も長く、妻の家事時間は2番目に短いため、夫と妻の家事時間の差は非常に少ない。

第6に夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって非常に不公正だと思っているカッ

プルでは夫と妻の年齢は高く、①と同程度である。①に比べると結婚月数が長く、学歴は最も低い。専業主婦の比率は高いが、末子が乳幼児である比率は中程度である。性別役割分業意識は最も高い。妻の家事時間は長く、夫と妻の家事時間の差は大きい。

第7に夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって非常に不公正だと思っているカップルは最も若い年齢層であり、学歴は中程度である。末子が乳幼児である比率はやや高いが、専業主婦の比率は低い。性別役割分業意識はやや低く、他のグループでは夫と妻の差があるが、⑦では夫と妻の差がない。しかし夫の家事時間は非常に短く、妻の家事時間が非常に長い。夫と妻の家事時間の差は最も大きい。

第8に夫は公正だと思っているか、妻は夫にとって不公正だと思っているカップル。中程度の年齢層だが、結婚月数は短い。夫の学歴は中程度だが、妻の学歴は高く、8つのグループの中で唯一妻の方が夫よりも平均学歴が高い。末子が乳幼児である比率はやや高いが、専業主婦率は最も低い。性別役割分業意識は非常に低い。夫の家事時間は2番目に多く、妻の家事時間は最も少なく、夫と妻の家事時間の差は最も少ない。

これら8つのタイプの夫婦で家事に関する意見が一致せずけんかになるのは、妻の回答から判断すると、⑥⑦のカップルがもっとも多く、1ヶ月に数回である。次に多いのは⑤⑧②③のカップルで1ヶ月に多くても1回もしくは1ヶ月に数回である。もっとも少なかったのが、①④のカップルで全くないか、1ヶ月に多くても1回である。

3. 結論

公正感に関連すると思われた変数（性別分業意識、学歴）がNSFHデータを用いたこの分析では関連していなかった。家事に関する公正感には性別役割分業意識のような規範ではなく、実際の家事時間や仕事時間との関係がみられた。特に妻は実際の家事時間が重要になるという現実的な側面がうかがえる。それに対して夫には仕事時間が影響するが、妻が働いているために当然家事をしても不公正ではないと、つまり自分がより家事をすべきだということには結びつかないようである。性別役割分業意識は平等的であったとしても、つまり頭でわかっている、家事を自分が行うことや、妻が仕事にでること、またそのために家事を自分が行わなくてはならなくなることは必ずしも当然のことだと思えないようである。ただし、互いに公正だと思っている夫婦が約半数を占めていたことから、決定係数が低かったということからもそれほど強くいえることではない。

また、公正感の組み合わせからグループを作成してみると、多様な夫婦像がみられた。互いに公正であると思っている夫婦が多いのは、日本と同じように妻に不均等な配分も妻が納得するからではない。これらのグループでは他のグループよりも夫婦間の家事時間の差が比較的少ないのである。ただしやはり他の夫婦と比べると自分たちは均等な配分を行っているから見なしているのかもしれない。また、公正であると思っていなければ、離婚してしまうという状況が背後にあることも考えられる。妻に不公正であるという点で夫婦が一致しているのはいわゆるデュアルキャリアの夫婦である。夫と妻の家事時間の差がもっとも少ない夫婦のパターンでは、逆に夫は公正だと思っているが、妻は夫に不公正つまり悪いと思っている。

これらの結果から解釈すると、日本より明らかに妻と夫の家事時間の差は少なく、性別役割分業意識も平等的である人が多いアメリカにおいても、いまだ、性別役割に関する変化は過渡期といえるのではないだろうか。5年後のNSFHデータとの併用によって、変化の方向性がより明らかになると考えられる。

注

1) 括弧内は筆者による加筆である。

文献リスト

- Bergen, Elizabeth, 1990, The Multidimensional Nature of Domestic Labor : An Investigation of Husbands' Participation , NSFH Working Paper.
- Blair, Sampson Lee and Michael P, Johnson, 1992, " Wives' Perceptions of the Fairness of the Division of Household Labor: The Intersection of Housework and Ideology" , Journal of Marriage & the Family 54(3):570-581.
- Demaris, Alfred and Monica A, Longmore, 1996, "Ideology, Power, and Equity: Testing Competing Explanations for the Perception of Fairness in Household Labor," Social Forces 74(3):1043-1071.
- John, Daphne, Beth Ann Shelton, and Kristen Luschen, 1995, "Race, Ethnicity, Gender, and Perceptions of Fairness," Journal of Family Issues 16(3): 357-379.
- 厚生省人口問題研究所, 1996, 『現代日本の家族に関する意識と実態』
- Laura, Sanchez and Emily w, Kane, 1996, "Women's and Men's Constructions of Perception of Housework Fairness," Journal of Family Issues 17(3):358-387.
- Lennon, Mary Clare and Sarah Rosenfield, 1994, "Relative Fairness and the Division of Housework: The Importance of Options," American Journal of Sociology 100(2):506-531.
- Linda, Thompson, 1991, " Family Work: Women's Sense of Fairness " Journal of Marriage & the Family 12(2):181-196.
- NHK放送文化研究所世論調査部, 1995, 『生活時間の国際比較』
- NHK放送文化研究所世論調査部, 1990, 『国民生活時間調査』
- 総務庁青少年対策本部, 1996, 『子どもと家族に関する国際比較調査』
- Theodore, Greenstein, 1996, "Gender Ideology and Perceptions of the Fairness of the Division of Household Labor: Effects on Marital Quality," Social Forces 74(3):1029-1042.

表1. 回答者の年齢

	夫年齢	%	妻年齢	%
19-23歳	110	3.1	209	6.0
24-28歳	419	12.0	535	15.3
29-33歳	593	16.9	682	19.5
34-38歳	624	17.8	649	18.5
39-43歳	523	14.9	443	12.7
44-48歳	359	10.3	317	9.1
49-53歳	305	8.7	293	8.4
54-58歳	249	7.1	371	10.6
59-63歳	209	6.0		
64-68歳	84	2.4		
69-73歳	15	0.4		
74歳以上	9	0.3		
計	3499	100.0	3499	100.0

表2. 回答者の学歴

	夫学歴	%	妻学歴	%
～11年	527	15.3	478	13.8
高校卒業	1233	35.7	1421	41.0
短大・大学中退	568	16.4	602	17.4
短大卒業	223	6.5	245	7.1
大学卒業	546	15.8	507	14.6
大学以上	358	10.4	209	6.0
Missing	44	1.3	37	1.1
計	3499	100.0	3499	100.0

表3. 回答者の収入

	夫年収	%	妻年収	%
0 \$	283	8.7	972	29.2
1～9999 \$	297	9.2	990	29.7
10000～19999 \$	661	20.4	781	23.5
20000～29999 \$	709	21.9	371	11.1
30000～39999 \$	605	18.7	133	4
40000～49999 \$	288	8.9	44	1.3
50000～59999 \$	139	4.3	12	0.4
60000～99999 \$	149	4.6	20	0.6
100000 \$～	110	3.4	7	0.2
Missing	258		169	
計	3499	100.0	3499	100.0

表4. 回答夫婦の結婚年数

結婚年数(月数)	実数	%
3年以内	485	13.9
10年以内	1034	29.6
20年以内	1036	29.6
30年以内	491	14.0
31年以上	450	12.9
Missing	3	
計	3499	100.0

表5. 末子年齢

	実数	%
17歳以下の子なし	1263	36.1
0～2歳	719	20.5
3～6歳	569	16.3
7～12歳	556	15.9
13～17歳	392	11.2
計	3499	100

表6. 家事公平感 相関分析

単純相関	世帯年収コントロール	夫年収コントロール	妻年収コントロール
-0.232 夫公正感 妻公正感	-0.241 夫公正感 妻公正感	-0.241 夫公正感 妻公正感	-0.239 夫公正感 妻公正感
世帯年収 +	世帯年収	世帯年収	世帯年収
夫年収 +	夫年収 +	夫年収	夫年収
妻年収	妻年収 -	妻年収	妻年収
夫年収-妻年収 +	夫年収-妻年収 +	夫年収-妻年収	夫年収-妻年収
夫仕事時間 +	夫仕事時間	夫仕事時間	夫仕事時間
妻仕事時間 -	妻仕事時間	妻仕事時間	妻仕事時間
末子0~2歳 +	末子0~2歳	末子0~2歳	末子0~2歳
末子3~6歳 -	末子3~6歳	末子3~6歳	末子3~6歳
末子7~17歳 +	末子7~17歳	末子7~17歳	末子7~17歳
夫年齢 - +	夫年齢 - +	夫年齢 - +	夫年齢 +
妻年齢 - +	妻年齢 - +	妻年齢 - +	妻年齢 +
結婚月数 - +	夫学歴	夫学歴	夫学歴
妻家事量 + -	妻学歴	妻学歴	妻学歴
夫家事量 - +	夫分業観	夫分業観	夫分業観
夫学歴 + -	妻分業観	妻分業観	妻分業観
妻学歴	結婚月数	結婚月数	結婚月数
夫分業観 +	妻家事量 +	妻家事量 +	妻家事量 +
妻分業観 -	夫家事量 - +	夫家事量 - +	夫家事量 - +
末子0~2歳コントロール	末子3~6歳コントロール	末子7~17歳コントロール	夫年齢コントロール
-0.239 夫公正感 妻公正感	-0.241 夫公正感 妻公正感	-0.241 夫公正感 妻公正感	-0.236 夫公正感 妻公正感
世帯年収	世帯年収	世帯年収	世帯年収
夫年収	夫年収	夫年収	夫年収
妻年収	妻年収	妻年収	妻年収
夫年収-妻年収	夫年収-妻年収	夫年収-妻年収	夫年収-妻年収 +
夫仕事時間	夫仕事時間 +	夫仕事時間	夫仕事時間
妻仕事時間	妻仕事時間	妻仕事時間	妻仕事時間
末子3~6歳	末子0~2歳 -	末子0~2歳	末子0~2歳
末子7~17歳	末子7~17歳	末子3~6歳	末子3~6歳
夫年齢 +	夫年齢 - +	夫年齢 - +	末子7~17歳
妻年齢 +	妻年齢 - +	妻年齢 - +	妻年齢
夫学歴	夫学歴	夫学歴	夫学歴
妻学歴	妻学歴	妻学歴	妻学歴
夫分業観	夫分業観	夫分業観	夫分業観
妻分業観	妻分業観	妻分業観	妻分業観
結婚月数	結婚月数	結婚月数	結婚月数
妻家事量 +	妻家事量 +	妻家事量 +	妻家事量 +
夫家事量 - +	夫家事量 - +	夫家事量 - +	夫家事量 - +

正負の記号があるものはP<.05以下で有意

妻年齢コントロール -0.236 夫公正感 妻公正感	夫学歴コントロール -0.24 夫公正感 妻公正感	妻学歴コントロール -0.24 夫公正感 妻公正感	結婚月数コントロール -0.239 夫公正感 妻公正感
世帯年収 夫年収 妻年収 夫年収- 夫仕事時間 妻仕事時間 末子0~2歳 末子3~6歳 末子7~17歳 夫年齢	世帯年収 夫年収 妻年収 夫年収-妻年収 夫仕事時間 妻仕事時間 末子0~2歳 末子3~6歳 末子7~17歳 夫年齢 - 妻年齢 -	世帯年収 夫年収 妻年収 夫年収-妻年収 夫仕事時間 妻仕事時間 末子0~2歳 末子3~6歳 末子7~17歳 夫年齢 - 妻年齢 -	世帯年収 夫年収 妻年収 夫年収-妻年収 夫仕事時間 妻仕事時間 末子0~2歳 末子3~6歳 末子7~17歳 夫年齢 - 妻年齢 -
夫学歴 妻学歴 夫分業観 妻分業観 結婚月数 妻家事量 + 夫家事量 -	妻学歴 夫分業観 妻分業観 結婚月数 妻家事量 + 夫家事量 -	夫学歴 夫分業観 妻分業観 結婚月数 妻家事量 + 夫家事量 -	妻学歴 夫分業観 妻分業観 結婚月数 妻家事量 + 夫家事量 -
夫年収-妻年収コントロール -0.241 夫公正感 妻公正感			
世帯年収 夫年収 妻年収 夫仕事時間 妻仕事時間 末子0~2歳 末子3~6歳 末子7~17歳 夫年齢 - 妻年齢 -			
夫学歴 妻学歴 夫分業観 妻分業観 結婚月数 妻家事量 + 夫家事量 -			

正負の記号があるものはP<.05以下で有意

表7. 妻の家事公正感に関する重回帰分析 表8. 夫の家事公正感に関する重回帰分析

	Beta	Sig
妻の年齢	0.11	0.00
夫の家事時間	0.10	0.02
妻の家事時間	-0.06	0.00
Adj R	0.03	
F値	13.09	
Sig	0.00	
	Beta	Sig
妻の年齢	0.12	0.00
夫と妻の家事の	0.11	0.00
Adj R	0.02	
F値	18.31	
Sig	0.00	

	Beta	Sig
夫の年齢	-0.07	0.01
夫の家事時間	-0.09	0.02
妻の家事時間	0.09	0.00
Adj R	0.02	
F値	9.64	
Sig	0.00	
	Beta	Sig
妻の年齢	-0.07	0.01
夫と妻の家事の	-0.13	0.00
Adj R	0.02	
F値	14.20	
Sig	0.00	

注) 表1で他の変数をコントロールしたうえで有意な相関関係にあった変数(夫年収、妻年収、夫年収-妻年収、夫仕事時間、夫年齢、妻年齢、結婚月数、妻家事時間、夫家事時間)をステップワイズ法で投入

表9. 妻の家事公正感に関する重回帰分析 表10. 夫の家事公正感に関する重回帰分析

	Estimate	Sig
Intercept	2.41	
夫の家事時間	0.01	0.00
妻の家事時間	-0.01	0.00
夫の仕事時間0時	-0.14	0.12
週1~39時	-0.05	
週40時間	0.14	
週41時間~	0.00	
妻の仕事時間0時	-0.16	0.73
週1~39時	-0.08	
週40時間	-0.57	
週41時間~	0.00	
夫の仕事×家事	0.00	0.24
週1~39時	0.00	
週40時間	-0.01	
週41時間~	0.00	
妻の仕事×家事	0.01	0.15
週1~39時	0.00	
週40時間	0.00	
週41時間~	0.00	
夫の年齢	0.00	0.85
妻の年齢	0.00	0.08
Adj R	0.04	
F値	2.99	
Sig	0.00	

N=1195

	Estimate	Sig
Intercept	3.08	
夫の家事時間	0.00	0.00
妻の家事時間	0.01	0.00
夫の仕事時間0時	0.08	0.65
週1~39時	0.14	
週40時間	-0.17	
週41時間~	0.00	
妻の仕事時間0時	0.27	0.01
週1~39時	0.36	
週40時間	0.24	
週41時間~	0.00	
夫の仕事×家事	-0.01	0.02
週1~39時	-0.01	
週40時間	0.00	
週41時間~	0.00	
妻の仕事×家事	-0.01	0.02
週1~39時	-0.01	
週40時間	0.00	
週41時間~	0.00	
夫の年齢	0.00	0.82
妻の年齢	-0.00	0.48
Adj R	0.04	
F値	2.95	
Sig	0.00	

N=1202

表11. 家事についての夫と妻の公正感

	妻の公正感					合計
	私にとって非常に不公	私にとって不公正	公正	夫にとって不公正	夫にとって非常に不公正	
夫の公正感	私にとって非常に不公	3 (0.1)	4 (0.1)	12 (0.4)	4 (0.1)	23 (0.7)
	私にとって不公正	5 (0.2)	20 (0.6)	⑤ 56 (1.7)	13 (0.4)	3 (0.1) 97 (3.0)
	公正	⑥ 93 (2.8)	② 454 (13.9)	① 1624 (49.6)	⑧ 74 (2.3)	22 (0.7) 267 (69.3)
	妻にとって不公正	⑦ 74 (2.3)	③ 356 (10.9)	④ 347 (10.6)	16 (0.5)	3 (0.1) 796 (24.3)
	妻にとって非常に不公	19 (0.6)	30 (0.9)	34 (1.0)	5 (0.2)	2 (0.1) 90 (2.7)
	合計	194 (5.9)	864 (26.4)	2073 (63.3)	112 (3.4)	30 (0.9) 3273 (100)

括弧内は全体%

表12. 夫の公正感×妻の公正感別 属性・意識・行動

夫の公正感×妻の公正感	夫年齢	妻年齢	結婚月数	夫学歴	妻学歴	夫年収	妻年収	夫-妻年収
①互いに公正だと思っている	41.1	38.3	178.9	12.89	12.67	30886.2	9917.0	20969.2
②夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって不公正だと思っている	39.1	36.0	160.8	13.36	13.25	33162.8	11415.1	21747.7
③夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって不公正だと思っている	37.6	35.4	152.5	13.99	13.54	33339.7	11291.0	22048.7
④夫は妻には不公正だと思い、妻は公正だと思っている	38.3	35.8	161.2	13.82	13.26	37704.7	12070.4	25634.3
⑤夫は自分にとって不公正だと思い、妻は公正だと思っている	39.0	36.5	141.3	13.63	13.26	25358.5	8598.3	16760.2
⑥夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	41.2	38.2	185.0	11.84	11.67	25196.6	9302.5	15894.1
⑦夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	37.8	35.2	152.0	13.30	12.99	29164.7	14595.2	14569.5
⑧夫は公正だと思っているが、妻は夫にとって不公正だと思っている	40.4	37.0	149.8	13.22	13.48	27202.2	14242.0	12960.2
MEAN	40.0	37.2	169.3	13.19	12.94	31866.8	10716.8	21150.0
PROB	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
F値	7.07	6.76	3.73	11.47	10.28	1.71	0.90	0.88

注) 学歴は教育年数。年収は自営・雇用を含む年収、単位：\$。

夫の公正感×妻の公正感	夫役割意識	妻役割意識	夫家事時間	妻家事時間	夫-妻家事	夫+妻家事	末子0-2歳
①互いに公正だと思っている	2.45	2.68	20.5	38.8	-19.1	57.8	18.80%
②夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって不公正だと思っている	2.63	2.90	18.6	38.0	-19.0	56.9	20.90%
③夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって不公正だと思っている	2.88	3.06	16.7	40.8	-22.0	57.5	23.30%
④夫は妻には不公正だと思い、妻は公正だと思っている	2.70	2.78	16.2	38.9	-23.5	55.9	29.40%
⑤夫は自分にとって不公正だと思い、妻は公正だと思っている	2.88	3.33	25.4	31.2	-4.7	56.3	26.80%
⑥夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	2.21	2.60	16.7	43.7	-30.8	57.1	21.50%
⑦夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	2.90	2.94	13.5	50.2	-34.9	64.9	25.70%
⑧夫は公正だと思っているが、妻は夫にとって不公正だと思っている	3.09	3.22	25.3	29.9	-3.5	56.3	25.70%
MEAN	2.58	2.80	19.2	39.0	-20.0	57.5	21.40%
PROB	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
F値	10.62	7.99	4.60	3.53	6.05	1.08	23.20

注) 役割意識は数値が大きいほど性別役割分業意識が低いことを意味する。末子0-2歳欄は末子が0～2歳である比率、 χ^2 検定。家事時間は1週間合計時間数。

夫の公正感×妻の公正感	夫仕事時間	妻仕事時間	夫-妻仕事	専業主婦率	意見不一致
①互いに公正だと思っている	41.8	29.0	13.3	22.30%	1.72
②夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって不公正だと思っている	43.2	30.3	12.7	17.80%	2.45
③夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって不公正だと思っている	44.8	30.4	14.0	12.40%	2.46
④夫は妻には不公正だと思い、妻は公正だと思っている	45.0	27.3	17.0	23.20%	1.79
⑤夫は自分にとって不公正だと思い、妻は公正だと思っている	41.8	26.0	16.2	28.60%	2.19
⑥夫は公正だと思っているが、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	39.6	27.8	14.6	23.00%	2.80
⑦夫は妻には不公正だと思い、妻は自分にとって非常に不公正だと思っている	45.6	33.1	12.3	14.90%	2.87
⑧夫は公正だと思っているが、妻は夫にとって不公正だと思っている	40.0	30.8	10.0	16.90%	2.21
MEAN	42.7	29.2	13.7	20.30%	2.00
PROB	0.00			0.00	0.00
F値	3.96	1.42	1.08	21.94	64.03

注) 仕事時間は1週間合計時間数、0時間の者も含んだ平均。専業主婦率は妻の仕事時間が0であった者の比率、 χ^2 検定。

④

重点領域研究「マイクロ統計データ」・公募研究（課題番号08209118）
「家族構造の国際比較のための基礎的研究－公共利用マイクロデータの作成と活用－」
平成8年度研究成果報告書（1）

公共利用マイクロデータの活用による 家族構造の国際比較研究

－米国NSFH調査データの利用を通して－

1997年3月

研究代表者 石原邦雄
（東京都立大学）